

香川県におけるニカメイチュウの有機リン剤感受性

佐々木善隆・西山芳邦・葛西辰雄

1980 年,81 年に香川県牟礼,多度津,豊中から第 2 回成虫を採集し,一世代増殖して fenitrothin,fenthion に対する感受性を,1985 年に多度津個体群の第 1 世代幼虫について dimethylvinphos,phenthoate,tetrachlorvinphos,fenitrothion,fenthion,chlorpyrifos-methyl に対する感受性を検討した。

1985 年の多度津個体群は dimethylvinphos,phenthoate,tetrachlorvinphos に対する感受性は高く,LD<sub>50</sub> はそれぞれ 2.0,4.5,5.8  $\mu$  g/g であった。この個体群は dimethylvinphos の 1/b の値がやゝ大きかったが phenthoate と tetrachlorvinphos のそれは小さかった。しかしこの個体群は fenitrothion,fenthion,chlorpyrifos-methyl に対する感受性は低く,特に chlorpyrifos-methyl の LD<sub>50</sub> は 114  $\mu$  g/g であった。

1980 年の牟礼,1981 年の多度津と豊中個体群の fenitrothion の LD<sub>50</sub> は大きく,抵抗性比は 20~22 であった。牟礼と多度津個体群の fenthion に対する LD<sub>50</sub> も大きく抵抗性比は 30~34 であった。